

道路・交通

あかすの踏切小平駅西側の
小平第一号踏切の抜本的解決を

市長 ①都の踏切対策基本方針
において平成37年度までに踏切
道の拡幅等の対策が必要な重点
踏切として抽出されているが、
あかすの踏切としての位置づけ
ではないと理解している。

②歩行者や自転車等の安全対
策として都が平成26年10月に踏
切北側の都道内に路側帯及びカ
ラー舗装を設置している。

小平一信号無視の多い小平駅
南口交差点の信号機の改善を

市長 ①南口ロータリーへの入
口など複数の交差点が近接して
おり、それらに合わせて信号機

はあるか。
②信号無視を防ぐための方策
はあるか。

市長 ①都市の骨格であり、社
会的に重要なさまざまな役割や
機能があると認識している。

②都を中心に検討を進めてい
る整備方針の中で、策定の検討
段階に応じパブリックコメント

が運用されていることから、ほ
かと比べ、待機時間が長いと認
識している。

②注意喚起の看板を設置して
いるが、ほかは何らかの対策が
できないか、引き続き、小平警
察署と検討していく。

▲小平駅南口交差点



が運用されていることから、ほ
かと比べ、待機時間が長いと認
識している。

②注意喚起の看板を設置して
いるが、ほかは何らかの対策が
できないか、引き続き、小平警
察署と検討していく。

B地域にはバスとコミタク
双方の運行が必要で

木村まゆみ議員(共産) ①小
平市南西のB地域のにバス延
伸等の要望に応じてはどうか。

②国分寺市との乗り入れ協議
の進捗状況は。

市長 ①府中街道の渋滞により
定時性の確保が困難であること
や、車両の滞留場所等に課題が
あることから延伸等は困難と考
えている。今後、都市計画道路
の整備により環境の大きな変化
が想定されるため、その進捗状
況を注視していく。

②具体的な相互乗り入れなど
の検討には至っていないが、今
後も情報交換を行っていく。

都市計画道路については
全市的な議論が必要ではないか

橋本久雄議員(虹ひ) ①都市
計画道路の整備についてどのよ
うに認識しているか。

②市全体のまちづくりという視
点から全市的な検討の場をつく
れないか。

市長 ①都市の骨格であり、社
会的に重要なさまざまな役割や
機能があると認識している。

②都を中心に検討を進めてい
る整備方針の中で、策定の検討
段階に応じパブリックコメント

を実施するなど適切な対応が行
われると考えている。また都市
計画マスタープランの検討の中
で、市民の意見を聞いていく。

小平都市計画道路3・3・3号
線周辺の安全対策は

立花隆一議員(公明) ①小川
橋の整備工事による渋滞の改善
の効果と周辺住民への影響は。

②小平都市計画道路3・3・
3号線周辺の安全対策は

3号線の全体的な考え方は。
市長 ①小川橋交差点を中心と
した渋滞が解消することが期待
され、周辺住民にとって安全・
安心な交差点の利用ができるよ
うになると理解している。

②現在のところ、優先整備路
線として位置づけられていない
ため、次期整備方針の検討の中
で都を中心に適切に対応される
と考えている。

学校給食センターの
老朽化対策について

幸田昌之議員(公明) ①学校
給食センターの老朽化によるふ
ぐあいはあるか。

②PFI導入可能性調査を受
けて学校給食センターの建てか
えをどのように進めていくのか。

教育長 ①調理機器の経年劣化
等により、まれに故障が生じる
ことがあり、本年度5月に炊飯
ができなくなる事態が発生した。

②PFI事業が適しているかと
判断した場合は、民間の資金や
ノウハウを活用できる具体的な
内容や事業範囲を関係課が連携
し協議を行いながら定めていく。

がんの教育の積極的な推進を

幸田昌之議員(公明) ①がん
の教育のこれまでの取り組みは。

②がんの特化した命を守る教
育を実施すべきでは。

教育長 ①小・中学校の保健分
野の授業において、がんを取り
上げている。また、小平第十二
小学校では、担任と養護教諭が
連携して、がんに関する指導を

3号線の全体的な考え方は。
市長 ①小川橋交差点を中心と
した渋滞が解消することが期待
され、周辺住民にとって安全・
安心な交差点の利用ができるよ
うになると理解している。

②現在のところ、優先整備路
線として位置づけられていない
ため、次期整備方針の検討の中
で都を中心に適切に対応される
と考えている。

学校施設でも耐震診断を行い、
不適合の施設は耐震改修工事を
実施すべきだが市の考えは。

教育長 新耐震基準で建てた学
校施設は、既に震度6強から7
程度の大地震に対し一定の安全
が確保されていると考えている。
また、耐震補強工事は旧耐震基
準の建物が新耐震基準を満たす
ための工事であるので、新耐震
基準で建てられた建物に、新た
に耐震診断を行う考えはない。

二中のスポーツ施設や設備等を
もっと充実できないか

佐野郁夫議員(政和) ①夜間
照明施設の設置を検討したか。

②テニスコートの改修整備の
検討は。

教育長 ①平成22年度に簡易な
ものを6基設置した。本格的な
設備は近隣住民への影響等を考
慮し、慎重な対応が必要であり、
現在のところ設置予定はない。

②防球ネットの修繕は適宜行
っているが、大規模な改修は、
他のスポーツ施設とのバランス
も見きわめて検討していく。

子ども体力運動能力の現状と
向上に向けての対策はいかに

常松大介議員(フオ) 都内公
立学校を対象に実施された体力
テストの結果から市内の児童・
生徒の体力、運動能力の現状を
どのように認識しているか。ま
た、向上に向けての対策は。

教育長 ここ3年間の都と市の
結果を比べると24年度から徐々
に都の平均値を上回る種目が増
加しており、児童・生徒の体力、
運動能力が向上したと捉えてい
る。今後は、こだいら一斉体力
テスト週間の実施等の取り組み

で課題を見つけ、体力向上への
意識を高めるとともに小・中学
校9年間を通じて個に応じた指
導を行っていく。

睡眠教育で不登校児童・
生徒ゼロを目指す

石毛航太郎議員(フオ) ①現
在の不登校児童・生徒の人数は。

②規則的な睡眠リズムを維持
できない子どもがふえ、不登校
などの一因となっているが、市
では眠育(睡眠教育)を取り入
れた取り組みを行っているか。

教育長 ①本年度1学期末の段
階で、国の不登校の定義に該当
する児童・生徒は小学校で14人、
中学校で67人の合計81人である。

②現在、睡眠に特化した取り
組みはないが、小学校保健の単
元や中学校保健体育の単元で睡
眠を含めた規則正しい生活習慣
の確立の重要性を指導している。

外国人児童・生徒とその家庭へ
の支援体制について

小林洋子議員(フオ) ①日本
語指導を受けるための基準は。

②日本語指導講師派遣につい
ての現状と課題は。

教育長 ①校長と教育委員会が
日本語指導を必要と認めた児童
等に対して講師を派遣すること
を要綱で定めている。

②さまざまな国の言語を母語
とする児童・生徒がふえている
現状があり、その母語を理解で
きる指導者の派遣が難しいこと
が課題である。

台風など緊急時の教育委員会と
児童課の対応について

小林洋子議員(フオ) ①休校
とする判断基準はあるか。

②学童クラブを休みにする判
断基準は。

③休校となっても学童クラブ
が休みとならない工夫は。

教育長 ①休校等の臨時的な措
置は校長が判断するが、登下
校時に台風の接近する可能性が
高い場合等は、教育委員会が全
校統一的な措置方針を示す。

市長 ②小学校が休校または午
前中の早帰りの措置がとられた
場合は閉所することとしている。
③緊急時には人材確保ができ
ないなど、現行の職員体制では
難しいと考えている。

地域ぐるみで学校支援を
進めることについて

坂井やすのり議員(みな) ①学
校の教育活動全般に支援活動を
展開する学校支援地域本部事業
の現状は。

②市内全校に配置されている
コーディネーターの役割は。

教育長 ①市立小・中学校全校
で学校支援ボランティアにより
学習支援等のさまざまな活動が
展開されている。

②学校と地域をつなぐパイプ
役として、学校と学校支援ボラ
ンティアの連絡調整や学校のニ
ーズに応じた支援人材のコーデ
ィネーターなどを行っている。

住宅開発に伴う通学区域の選定
基準と通学路の安全対策は

立花隆一議員(公明) ①朝鮮
大学校南側グラウンド跡地の宅
地開発による入居世帯の小学校
通学区域とその選定基準は。

②玉川上水緑道を通学する児
童への学校の指導と防犯対策は。

教育長 ①現時点では小平第一
小学校である。通学区域は各市

町村の教育委員会が道路等の地
理的状况等を踏まえて設定する。
②登下校の際は、できるだけ
1人で歩かないように指導して
いる。また、スクールガードに
よる巡回警備等により子どもの
安全確保を図っている。

教育・文化

公園 用水

花小金井四丁目市民広場の
あり方について

川里春治議員(政和) ①市民
広場の使い方でのトラブルはど
のようなものがあるか。

②市民広場の今後をどのよう
に考えているか。

教育長 ①騒音やサッカー、野
球のボールによって広場内の倉
庫が傷んだり、隣接した住宅の
壁にボールが当たるなどの苦情
が寄せられている。

②近隣住民の意見等も踏まえ
ながら、市民の多目的、かつ自
主的な利用を図るという目的に
沿った管理運営を行っていく。



▶通学路として利用されている
玉川上水緑道

町村の教育委員会が道路等の地
理的状况等を踏まえて設定する。
②登下校の際は、できるだけ
1人で歩かないように指導して
いる。また、スクールガードに
よる巡回警備等により子どもの
安全確保を図っている。

町村の教育委員会が道路等の地
理的状况等を踏まえて設定する。
②登下校の際は、できるだけ
1人で歩かないように指導して
いる。また、スクールガードに
よる巡回警備等により子どもの
安全確保を図っている。